

令和5年度「第3次青森県子ども・若者育成支援推進計画」関連事業一覧

【基本目標Ⅲ】 創造的な未来を切り拓く子ども・若者の育成

重点目標11 創造的な未来を切り拓く子ども・若者の育成を推進します

| No. | 部局名 | 課名 | 事業名 | 重点目標項目 | 重点枠事業 | 新規継続 | R4 予算額 (千円) | R5 予算額 (千円) | 令和4年度の取組状況 | 令和5年度主な事業内容 | 施策の 方向性等 | |
|-----|---------|-----------------------|---------------------------------|--------|-------|------|----------------|----------------|---|--|-------------|----|
| 1 | 総務部 | 総務学事課 | 次世代を担う人材育成の推進事業 (特色教育支援経費補助) | 11 | | 継続 | 12,600 | 6,720 | 教育の国際化を図るため、英語教育の強化や国際交流の推進に係る取組に要する経費について、2法人2校に対して補助金を交付した。 | 教育の国際化を図るため、英語教育の強化や国際交流の推進に係る取組に要する経費に対し、補助金を交付する。 | 1① | |
| 2 | 三八地域県民局 | 地域連携部 | 女子力を活用した「三八の就域モデル」構築支援事業 | 11 | 重点枠事業 | 終了 | 4,967 | - | 高校生(24人)と企業(16社)が参加し、キックオフミーティングや調査活動前の勉強会、高校生が地域の企業と暮らしの魅力をまとめたe-bookの制作に向けたワークショップ等を開催したほか、ホームページへの活動内容の掲載、魅力共有会(成果発表会)の動画配信及びe-book周知用リーフレットの配布等により情報発信した。 | - | 3① | |
| 3 | 教育庁 | 学校教育課 | 語学指導を行う外国青年招致事業 | 11 | | 継続 | 17,414 | 11,481 | 語学指導を行う外国青年を招致し、県立高等学校、学校教育課、総合学校教育センターに配置した。 | 引き続き、語学指導を行う外国青年を招致し、県立高等学校、学校教育課、総合学校教育センターに配置する。 | 1① | |
| 4 | 教育庁 | 学校教育課 | スーパーサイエンスハイスクール支援事業 | 11 | | 継続 | 3,599 | 3,610 | 科学技術や理科・数学に関する教育を重点的に行い、高等学校におけるカリキュラム開発を行うスーパーサイエンスハイスクール指定校に対し、事務負担軽減のための事務支援員1名ずつ配置した。 | 科学技術や理科・数学に関する教育を重点的に行い、高等学校におけるカリキュラム開発を行うスーパーサイエンスハイスクール指定校に対し、事務負担軽減のための事務支援員1名配置する。 | 2① | |
| 5 | 教育庁 | 学校教育課 | 県立学校におけるICTを活用した授業づくり推進事業 | 11 | | 新規 | - | 13,730 | - | 高等学校の授業の充実による生徒の資質・能力の育成を図るため、推進校においてICTを効果的に活用した授業改善のための実践研究等を行うとともに、特別支援学校において、障害種や個々の障害に応じた主体的、対話的で深い学びを推進するため、ICTを活用した授業実践や研修会等を行う。 | | 2② |
| 6 | 教育庁 | 生涯学習課 (総合社会教育センター) | パワフルAOMORI!創造塾 | 11 | | 継続 | 1,196 | 1,196 | 地域活動に係る潜在的な人材を掘り起こし、講義・演習や企画・運営を通して、地域を担う人材を育成し、卒業生は21人となった。また、育成した人材相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進した。 | 地域活動に係る潜在的な人材を掘り起こし、講義・演習や企画・運営を通して、地域を担う人材を育成するとともに、育成した人材相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進する。 | 3③ | |
| 7 | 教育庁 | スポーツ健康課 | あおもりスポーツアカデミー事業 | 11 | | 継続 | 3,822 | 3,822 | 国民体育大会をはじめとする全国大会や世界大会などの各種大会で活躍が期待される将来有望なジュニア選手を本県から輩出するため、運動能力が高く優れた素質を有する小学生を県内全域から72名発掘した。また、競技団体等と連携しながら、スポーツ医・科学を活用した本県独自の各種育成プログラムを5回実施した。 | 国民体育大会をはじめとする全国大会や世界大会などの各種大会で活躍が期待される将来有望なジュニア選手を本県から輩出するため、運動能力が高く優れた素質を有する小学生を県内全域から60名程度発掘する。また、競技団体等と連携しながら、スポーツ医・科学を活用した本県独自の各種育成プログラムを6回実施する。 | 4① | |